

# 文化座 しゃぼん玉

## 言わせて! 今日の芝居 五十字劇評 No.45

郷土PRふう映像は多すぎ。

(女性)

▼孤独な青年が、怪我をした老女を助ける。世間からはみ出した青年が、村人との生活で人間らしく再生していく。それが気持ちのよい感動だった。とかく自己責任などの言葉で分断される社会に、励ましや希望を与えてくれる芝居でした。

(女性)

▼愛さんの見事な演技に尽きる。一見単純そうな話だが、若者問題・家庭問題など社会の様々なひずみを考えさせられた。

(男性)

▼コロナ禍の中で、人と人とのつながりが大切だと改めて感じるお芝居でした。素敵なお芝居でした。(女性)

【六〇代】

▼わかりやすさと愛が信条の文化座。家族、人間、地域、愛。いい原作との出会い。

んというだけでなく、ひとりの母親として、後悔と心労の中にあっただらうなと思う。

(男性)

▼この作品は、若者が人生をやり直す物語。やり直すには、あるきっかけが必要だし、それを支え寄り添ってくれる人も必要。そして、何よりも自分自身がやり直すという気持ちになること。たとえ、その時どんなに惨めで格好悪い自分であつても。この舞台は、そのような過程がとても分かりやすく描かれていた。原作者の乃南アサさん、演出の西川さん、そして文化座の出演者の、このテーマに対する真面目で誠実な向き合い方が伝わってきて、とても共感できた。伊豆見翔人役の藤原章寛さんは、よく演じていたと思う。そして、佐々木愛さんはもちろんのこと、シゲ爺役の青木和宣さんや豊昭役の津田二朗さんなど存在感があつた。

ただ、残念なのは、一から十まで全て説明されるような表現は、説明し過ぎかなと思う。せめて、一から九までくらいでもよかつたのでは。また、映し出される映像は、どんなものが写っていて、薄っぺらで安っぽい感じがした。もう少し舞台づくりで工夫できなかつたかなと感じた。(男性)





▼文化座に元気をもらいました。一人では生きていけない。大事なことは、つながること。カーテンコールの拍手が、暖かかった。機関紙の表紙にも感動!!

(女性)

▼場の構成が良い！退屈しない。展開がとてもおもしろく映像を使っているのがとても良かった。

(女性)

### 【七〇代】

▼青年を演じる藤原章寛は、滑舌も良く演技も好感が持てた。更なる活躍が期待出来るそうだ。取り巻く役者連も演技が達者で安心して見られた。中でもシゲ爺の青木は、貫禄があり良かった。

(男性)

▼原作を読み、山間部の人々のつながりに気持ちを引き込まれ、シゲ爺にひかれました。芝居の方言は雰囲気でも聞きました。椎葉平家まつりが写って良かった。

(女性)

▼しゃぼん玉と言ったら、今でも何か楽しく夢があるような気がしていました。舞台上の青年が自分をしゃぼん玉に例えて、「ただ生きているだけ、どこかに着地しようとするれば割れちまう、誰かに振れば壊れて消えてしまう」のセリフを聞き

少し驚いた、そんな見方もあるのかと。でも舞台の後半で「しゃぼん玉」がいつ

ぱい飛んでいるのを観て、やはり私は夢と希望が見えた気がします。三人組のおばさん達のセリフが聞きづらかったが、年明けに人生再生のお芝居ハッピーエンド良かった。

(女性)

▼おおらかなスマ婆、イズミの繊細な所など素晴らしい演技だった。誰でもお芝居を楽しめる社会であってほしい。

(女性)

▼当り前の日常が椎葉村にあった。人間の優しさとかくまじさと共に存在していた。とげとげしい今の世の中で、心に深く残るしゃぼん玉であった。悪天候の中の北海道公演。文化座からエネルギ―を戴いた例会でもあった。

(女性)

▼辺境の地では敵も味方もない。厳しい生活でも祭りを中心に村が盛り上がる。そんな素朴な生活が心を優しくするのでしよう！

### 編集スタッフから

「言わせてー今日の芝居五十字劇評」がスタートしたのは、二〇一三年十月例会『殿様と私』の感想から。機関紙に折り込まれたのは、同年十二月例会『はい、奥田製作所』から。劇評集のコンセプトは、①芝居を語ることも「芝居を観る大きな楽しみ」のひとつ。②短い劇評で多数の声を集める。③甘□・辛□様々な感想を歓迎。というものでした。芝居を観てから、感想を投稿したり語り合うことで、楽しさが二倍にも三倍にもなります。甘□・辛□どちらでも大歓迎。ぜひ投稿してください。お待ちしております。